

令和4年度 学位記授与式の式辞

福井工業大学学長 掛下知行

卒業生の皆様、そして保護者の皆様、本日はご卒業おめでとうございます。本学を代表してこころよりお祝い申し上げます。

また、本日大変お忙しい中ご出席を賜りました、福井県副知事の中村保博様、また、大阪大学 工学研究科 副研究科長 大政健史様を、はじめとする多くのご来賓の皆様に深く御礼申し上げます。ありがとうございました。

本日ここに、学部534名(工学部281名、環境情報学部184名、スポーツ健康科学部69名)、大学院博士前期課程7名(応用理工学専攻4名、社会システム学専攻3名)、博士後期課程4名(応用理工学専攻1名、社会システム学専攻3名)の方々に学位を授与することが出来ましたことは、私どもの深く喜びとするところであります。学部は4年、大学院は2年ないし5年の間、勉学と研究に専念されて本日卒業し、社会に出て行くみなさまが、それぞれの分野で活躍し、日本の、また世界の産業と社会の発展のために大きく寄与されることを私ども教職員は心より祈念致しております。

特に皆様方に置かれましては、ほぼ3年間、新型コロナウイルスの感染拡大防止により、大学の入構制限や一部遠隔授業を行いましたため、卒論や学位論文を完成するに際して、様々な困難に直面したと思います。

また学生生活や日常生活を送る上でもいろいろと不便があったかと思えます。そうした、大変な状況の中で、諦めず、くじけず、忍耐強く、卒業までたどり着いた努力に対し、心より敬意を払いたいと思えます。福井工業大学で経験した、この経験が、社会に出た後も皆さんの、血となり肉となり、皆さんの背中を押してくれることとなります。

この良き日に卒業される皆さんに、今後の社会生活において、ゆとりと成功体験がとても大切だと言うお話を、送りたいと思えます。少しお時間をください。

皆さんが社会に出られますと、必ずしも順風満帆となるとは限りません。いえ、むしろ、逆風の時の方が多いかも知れません。重要なことは、逆風の時に、あるいは期待した成果が出なかった時に、その挫折や苦境から早期に回復する精神的な力の有無で、結果に大きな違いが出てくることは容易に推測できます。これまでは、えてしてこの力を精神論でとらえることが多かったのですが、今では、「レジリエンス」という言葉で表し、科学的な手法で考えようとされています。

難しい言葉ですが、聞いたことがある方もおられると思えます。あるいは、大学で材料工学を学んで来られた皆さんは、一度は耳にした言葉でしょう。工学の分野では、ストレスは物体に外圧によって加わる力、正確には応力となります。

その応力により生じる変形を歪み、すなわちストレインと言います。それに対してレジリエンスは、その歪みを跳ね返す力として使われます。レジリエンスは日本語では強靱と訳されて、ねばり強い、しなやかな力として広い分野で使用されています。例えば、自然災害に対抗する強靱な国土や強靱な社会として使われています。

一方でレジリエンスは心理学用語としても使われます。嫌なこと、辛いこと、悲しいことを経験すると心がへこんだり、途中でくじけそうになったり、落ち込んだりします。このような嫌な気分を、もとの正常な状態に戻す力が「レジリエンス」です。また、予期せぬことに遭遇した時に、動揺したり、途方にくれたり、不安に襲われたりします。そのような時に力になってくれるのもレジリエンスです。またレジリエンスはマイナスの状態を正常に戻すだけでなく、正常な状態にプラスとなる力を与えてくれる力も持っています。

この具体例ですが、昨年11月にカタールで開催されたサッカーワールドカップの1次リーグで、日本は優勝経験のあるドイツやスペインにいずれも2対1で逆転勝ちし、国内外で選手たちの健闘をたたえる声が上がりました。皆さんもよく覚えていることと思います。その日本チームの勝利は、選手それぞれが強靭なメンタルすなわちレジリエンスを持って試合に臨むことができたためと言われています。

このレジリエンスは、一部の人だけが持っている特別な力ではなく、もともと誰にでも備わっているもので心の筋肉と言われています。そして、体の筋肉と同じように鍛えれば確実に強くなります。レジリエンスの強い人は、次のような3つの特徴がある人です。

- 一つ目は肯定的な未来志向をもちポジティブな考えをつねにもてる人です。
- 二つ目は、友人や職場のまわり人との調整力をもてる人、
- 三つ目は仕事以外の興味や関心事をもっている人です。

このことは、すなわち、「日々の暮らしで、いかにゆとりをつくり出すか」を意識するかであり、仕事やプライベートにおいて、時間的・物理的・精神的なゆとりを持つことで、レジリエンスを高める効果が期待できます。

なかでも、一つ目に述べた自己肯定感や自己効力感が重要な要素の一つであると言われています。つまり、自己肯定感とは「自分には価値があると感じ自分を認めること。」です。また、自己効力感とは、「自分は、目標を達成するための能力を持っていると認識すること。」です。これらが大切な要素だとされています。そして、自己肯定感や自己効力感は、小さな成功体験を積み重ねていくことで涵養することができるかとされています。

今回卒業される皆さんは、すでに、大きな成功体験を経験しております。すなわち、コロナという逆境を乗り越え、専門知識や専門技術を獲得したという確かな手ごたえを感じていると思います。ですので、皆様は、自信をもって社会に出て、活躍して下さい。

もう一つ、皆様の旅立ちに当たり、その糧になればと思い、福井県出身の偉大な科学者の一人である竹内 均先生のご業績とお言葉のお話をしたいと思います。先生は、東京大学名誉教授で、地球物理学者であったことは皆様も良く知っていることと思います。また、私が、大学受験時代の物理の参考書で大変お世話になった先生です。

竹内先生は大野市で1920年に生まれ、旧制大野中学校、第四高等学校を経て東京大学に進学しまし

た。2004年に83歳で亡くなられています。先生は自分の人生経験を通じて、「大きい夢をもて、小さい一歩を踏み出せ」という言葉と、「継続していれば、なんでもすごいことになる。」という言葉を残されています。この言葉（夢と継続）は、これから社会に出て活躍される皆さんにとって、また、私にも、大変示唆に富む名言です。

竹内先生が地球物理学に興味をもち勉強することを志したきっかけは、「天災は忘れた頃にやって来る」という名言を残した物理学者の寺田寅彦博士に憧れたためであると、述べています。そして自分の夢を、「自然界で起きていることの謎解きと、科学を世の中に広く伝えること」として、大学で地球物理学の研究活動をつづけながら、科学を一般社会へ普及することに尽力されました。その中で、地球の営みである「プレートテクトニクス」に基づく科学的な地震学を広め、地震に対する警鐘を鳴らし続けました。プレートテクトニクスとは地球の表面は十数枚のプレートで覆われていて、そのプレートが移動して二つのプレートの境界で大きな地震が発生するという考えです。先生の活動は日本国民に地震の正しい知識を広め、地震防災に対する意識を高めました。しかし、先生の意志にかかわらず、地球のプレートテクトニクスの動きが原因となる大地震が、2011年には東日本大震災が発生し、また、先月の2月6日にはトルコ・シリアの国境近くで5万人を超える人命が亡くなる大地震が発生し、世界で今も多くの犠牲者がでています。竹内先生が地震防災にかけた強い意志を継続して、後世の人間が先生の夢を叶えるよう努力していくことを、私たちに課していると思います。

もう一つ竹内先生のご功績は、1981年に科学雑誌「Newton」の創刊を手掛けたということです。この雑誌は今も月刊誌として発行されていて、本屋や図書館に行くと目に入る赤い表紙の科学雑誌です。知っている方もおられると思います。

竹内先生が東大を定年退職して、科学を分かりやすく読者に伝えようとした雑誌です。ほとんどのページがきれいな写真とイラストで構成されていて、またわかりやすい文章で書かれています。先生が科学を世の中に伝えようとする強い思いを見ることができます。そのよう雑誌を編集する中で、先生はつねに心がけたのが「実証」ということです。すなわち、自然科学をテーマにして、事実に基づいて証明された証拠がある記事を、たくさん掲載するということです。先生が科学を普及するという夢を実現する中で、地道に、コツコツと実証を通して自然科学を探究する真摯な姿勢を伺うことができます。

このように、竹内先生の言葉と研究姿勢は、大きい夢をもって一步一步進み、それを叶えるためにひた向きの努力を継続することの大切さを教えてくれています。

今日卒業を迎えた皆様も自分の大きな夢を持ち、それを実現するよう日々研鑽して、福井工大の卒業生としてこれからの社会の発展に貢献するよう願っています。

皆様の今日の旅立ちに際し、心からのエールを送り、私の、式辞とさせていただきたいと思います。

本日はご卒業、誠におめでとうございます。